

デザイナーのための経済コラム(21)

さまざまなリテラシー(literacy・識字率)について

現在は「リテラシー」の意味・概念は拡大されて、単なる「読み書き能力」から、「質的知識」、「認識度、理解度」の意味で使われているように思います。さらに概念が拡張され、派生されて使われると思います。このように概念を拡張して使うことは、比喩として使われ始め、比喩としてだけでなく、概念として定着していく過程でもあるように思います。どの分野においても、創造活動を継続していく上で「リテラシー・認識度」は重要なことと、思います。「ITリテラシー」、「ファイナンシャル・リテラシー」、「情報リテラシー」……………

建築、インテリアの分野に身を置く者にとって、「建築リテラシー」、「デザインリテラシー」、「インテリアリテラシー」、「造形リテラシー」、「感覚リテラシー」などは必須の「リテラシー」と言えます。

左近の世界の混乱・カオスを乗り越えるためにはさまざまな「リテラシー」が必要になって来ると思います。コロナ禍に対しては「医療リテラシー」、「科学リテラシー」、「統計学リテラシー」、「経済リテラシー」、「政治リテラシー」を高めることが必要になります。

ロシアのウクライナ侵攻から思うことは、「歴史リテラシー」、「民族リテラシー」、「国際政治リテラシー」、「外交リテラシー」、「地政学リテラシー」、「戦争・戦略・戦術リテラシー」、「法律リテラシー」、「プロパガンダリテラシー」などがロシアと対抗国とで、大きなギャップ、格差があったということです。

安倍元総理大臣の襲撃事件の反省として、さまざまな角度から「リテラシー」を高めなければいけないのではないかと思います。「警護リテラシー、SPリテラシー」、「宗教・教団リテラシー」、「犯罪リテラシー」、「武器・凶器リテラシー」、「税制リテラシー」、「献金リテラシー」、「政治活動リテラシー」などなどがあげられます。

これら最近の大きな事件、問題は「リテラシー」の欠如、格差と一口で言えますが、「リテラシー」の格差を解消できるかと考えると、決してその格差は無くならないと考えます。世界が格差のない均質なものになることは未来永劫あり得ません。もし、「リテラシー」に欠如、格差のない、均一な世界を求めようとすれば、専制主義、絶対主義、独裁主義の世界になってしまいます。

生産・生存活動とは、常に格差が生まれる世界であり、その格差は拡大して、階層化していく食物連鎖、弱肉強食の社会と言えらると思います。しかし、その格差拡大を放置するか、格差拡大による非人道をどのように対処するかが、その社会の文化・文明の盛衰を左右するのではないかと思います。

世界経済フォーラムによれば、日本のジェンダーギャップ(男女格差)は153国中の121位です。この数値には間違いはないと思います。しかし、ISSP(東大物性研究所)によれば、女性が家計を管理している国別順位を取れば、日本はトップです。日本女性も経営管理能力を十分持っています。

2019年日本のGDPは世界3位です。

<https://president.jp/articles/photo/47414?pn=1>

しかし、日本の所得格差を示すジニ係数は

<https://vicryptopix.com/gini/#i-5>

OECD38ヶ国の中で13位です。日本よりも所得格差の大きい国は12ヶ国あります。

南アフリカ、コスタリカ、メキシコ、トルコ、アメリカ、リトアニア、韓国、英国、ニュージーランド、ラトビア、イスラエル、スペイン

では、所得格差の大きい国はどんな国？ 所得格差の少ない国はどうしてなのか？(ロシア、中国はOECD外)

